

本学において令和4年度第1回助産師・母子保健従事者スキルアップセミナーを行いました【9月17日実施】

令和4年9月17日（土）、「周産期の課題 子どもの虐待死と妊産婦の自殺の予防に取り組む」をテーマに、助産師・母子保健従事者スキルアップセミナーを本学において開催いたしました。

当初、対面での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響により、ハイブリッド方式に切り替えて開催いたしました。オンライン参加者53名、来学者18名、計71名の方にご参加いただきました。医療施設や助産所および教育機関に所属する助産師、市町村に所属する保健師等、母子保健に従事する多様な方が参加され、子どもの虐待死や妊産婦の自殺、子育て支援に関する関心の高さがうかがえました。

講演では、本学神経精神医学講座 河西千秋教授より「母子のメンタルヘルス支援と自殺予防、助産師に期待すること」とし、自殺予防の基本となる知識についてご講義いただきました。「専門職が行う子育てとメンタルヘルスの支援、課題と打開策」をテーマとしたパネルディスカッションでは、札幌市保健所母子保健担当 斉藤佳代子課長、石狩市母子保健コーディネーター 佐々木智美保健師、江別市立病院産婦人科外来助産師 平田由佳主幹に登壇いただき、それぞれの立場での母子保健活動について話題提供をしていただきました。参加者より質問が多数寄せられ、本学保健医療学部看護学科 正岡経子教授が座長を務めディスカッションが繰り広げられました。

参加者からは「助産師と保健師がケースの支援を話し合う企画を充足する必要があると思いました」という建設的な意見が出され、「病棟で関わった特定妊婦、ハイリスク対象者が退院後どのように継続支援を受けているのか、過ごしているのか見えずもどかしさがあったため、実際を知ることができ良かった」「改めて支援が終結したケースを振り返ることで、見えてくる課題の多さに気づきました」などの感想が寄せられました。



▲本学神経精神医学講座 河西 千秋教授



▲札幌市保健所 母子保健担当
斉藤 佳代子課長



▲石狩市 母子保健コーディネーター
佐々木 智美保健師



▲江別市立病院 産婦人科外来助産師
平田由佳主幹



▲パネルディスカッション